

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		セカンドハウス			
		公表日 2025年12月27日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		広いスペースを確保している。	個別で利用できるスペースの設置。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		在籍職員は多くはないが、それでも多めの職員を配置している。	新しい人材の育成。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		完全なバリアフリーではないが、段差は少ない。	今後バリアフリーが必要な児童が来所する場合は改善が必要になってくるかと思う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		心地良く過ごせるよう設計段階から工夫し、視覚的にも安心して過ごせる空間作りを意識した。 毎日清掃している。年数回子ども達と一緒にそうさんかけリレー等を楽ししながら綺麗にしている。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		療育室と事務所しかないが、パーティションや衝立を使用して区切る。事務所でクールダウンする場合もある。	クールダウンのお部屋があとひとつあれば良いと思います。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		内部研修等でも周知している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		いただいた評価表を周知し全ては厳しいが皆で考え改善していっている。	「分からぬ」と回答している保護者様が内容を把握できる様努めたい。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		話し合いをよくするのでその場で意見を出し合っている。	新しい職員が、意見を発信しやすい様な関わりと環境作りを目指したい。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		評価を受けていない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		カンファレンスと内部研修、最低でも月2回は行っている。	外部研修等にもどんどん参加してもらえる機会を与える。
支援プログラム	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		されている。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		保護者様のニーズと本人のニーズを客観的に分析し、本人の手の届く範囲で計画を作成している。	

適切な支援の提供	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		見直しを早めに行うことを心掛け会議を行い、臨時カンファレンス等で共通理解が出来た上で支援がなされる様意識している。	月の出勤が月、3.4回のパート職員にも目標の伝達漏れが無い様連絡ツールをしっかり使用する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		カンファレンスや臨時カンファレンスにて共有している。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		アセスメントに加え、インフォーマルなアセスメントや本人観察を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		各項目を意識した上で本人の目標に応じた項目に設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		意見を出し合いながら行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		新しいプログラムを取り入れる努力をしている。	固定を意識し、こだわりを持って標準化しているプログラムもある。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		それぞれの目標を状況や家庭環境に配慮し支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		職員間では常に話し合いをしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		休みの職員にも、伝達事項はその日に共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		記録は日々残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		早めに面談するようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7		様々な方向から支援を組み合わせている。	

	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		自分の意見を伝えられるような働きかけをしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達管理責任者が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		あまり機会は無いが、いつでも連携できるよう心掛けている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		なかなか難しい事ではあるが、心がけてはいる。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1		なかなかそのような機会がない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	機会や要望があれば行う。	移行先からの問い合わせ等の事例がない。今後あればしっかりと情報提供を行いたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	6	1		学年が上がり地域の子と関わるのが苦手な子もいるためなかなか難しい。今後良い交流ができるよう考えていきたい。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2		なかなか行けていない。調整をし参加していくとは思う。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		日々保護者の方への報告報告は密に行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		保護者会を年数回行い、その中でも情報提供を行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に行っている。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		必用があれば（子どもの年齢や発達度合いに応じて）双方の意見を尊重し優先すべき意向を踏まえ作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		要望や必要性に応じて面談の時間を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		家族の皆様で参加していただくレクリエーションやパーティーをしている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		しっかりと話をお聞きしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		月1回新聞・毎日の写真送信・SNS発信をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		鍵付き棚に収納している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		プライバシー等には十分気を付けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2		招待した事はない。今後検討する。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		内部研修及び、シミュレーション訓練を行っている。	
#F	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		避難訓練及び、シミュレーション訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		対応の仕方などもお聞きしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	指示書は預かっていないなく、保護者さんからお聞きしている。	

非常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		内部研修を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		HP等に掲載する。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットを活用・周知している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		年2回の虐待内部研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		現在身体拘束を行う事例がない。	